

宿縁

一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番二十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

人間道から 仏道へ 眼を転じよう



ゆく年くる年。

年の暮れになると過ぎ越し一年を想い、新たな気持ちで、くる年を迎えようとするのは昔も今も変わりません。

しかしその中身を問うことが肝心です。

大方の人は、来年こそは良い年でありますように！との願いが心の底に流れているのではないのでしょうか。考えてみると、良い年とか悪い年とかの判定を下すのは私自身であって最初から規定などどこにもありません。人生に起こるすべての事象はすべて縁に

もようされて時々刻々と変化していることをしっかりとわきまえねばなりません。

『ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたたかば、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたることなし。世の中にあるひとと栖もまたかくの如し。(原文)』

玉を敷いたように美しい都の中で、棟を並べ、屋根の高さを競っている、身分の高い人、低い人の住居は、長い年月を経過してもなくならないものであるが、これが真実かと調べると、昔あったままの家はめつたにないものである。あるものは、去年焼けて今年建てた。あるものは、大きな家が滅んで、小さな家となる。住んでいる人も、これと同じである。場所も変わらず、人も多けれども、昔からの顔見知りは一、三十人のうちで、わずかに一人か二人である。ある者が朝に死に、またある者が夕方に生まれるという。世の常は、ちようど水の泡に似ているのだ。私にはわからない。生まれたり死んだりする人は、どこから来て、どこへ去ってゆくのか。また、わからない。飯の住居は、誰のために苦心し、何にもとづいて月を楽しませるのか。その主人と家とが、常に変転することを争う有様は、たとえてみれば、朝顔の花と露との

関係も同じである。あるときは、露が落ちて花が残っている。残っているといても、朝日に当たって枯れてしまう。あるときは、花がしぼんで、露がまだ消えないでいる。消えたといつても夕方まで残っていることはない。』(現代語訳)

古典文学で知られる方丈記(鴨長明)の始めの部分の載せましたが、まさに名文です。中身について異議をさしはさむ所はまったくありません。

それなのに私たちの生き方は一向に改まりません。無常なるものを追いかけ、それに執着し、失つては悲しみ、壊れては嘆きの尽きることがありません。

地上において、その愚かさの原因に目覚め、さとり(安住)を得たブツダ釈尊の教えは經典として次のように伝えられています。

「人間ほど浅はかなものはない。いずれも急がなくてもよいことを急ぎ、争わなくてもよいことを争っている。この激しい悪と渦のなかに、あくせくとして勤めはたらき、それによつてやつと生計を保っているのである。人間は、心愚かにかたくなで、正しい教えを信じようとしなない。したがって将来を思いはからず、われがちに目前の歓楽のみを追っている。愛欲にまどい、道徳をわきまえず、怒りにくるい、財と色とをむさぼることは、まるで狼のようである。そのために、道が得られず、ふたたび悪道に沈んで苦しみ、いつまでも生死流転はつきない。なんとという哀れな痛ましいことであろうか。およそ人と生まれることはかたく、仏の世にあうこともまたむずかしい。ましてや信

心の智慧を得るのはさらにむずかしい。もし法を聞けば、つとめて道を求めるがよい。聞き得たところをよく心にとどめ、仏を仰いで信じよるこぶものこそ、われの善き親友である。」 (仏説無量寿経)

こうして人間の世界、私という存在を知ると嫌気がさしそうですが、決してそういうものではありません。仏法はそこを認識した上に雄々しく輝いて生きる道を教えます。

仏教的感性溢れる詩をたくさん残した金子みすゞの詩に「蓮と鶏」があります。

泥の中から 蓮が咲く
それをするのは 蓮じゃない

卵のなかから 鶏が出る
それをするのは 鶏じゃない

それに私は 気がついた
それも私の せいじゃない

蓮という花は「泥の中に咲く。泥の中にありながら、泥に染まらず美しい花を咲かせる」というのです。金子みすゞは、「泥があるからこそ花は咲く」ととらえるのです。そして、「それに私は気づいた。でもそのことに気づかせてくれた存在がある」と続くところが仏教の縁起(関係性)を語っているかのようにです。

知らず知らずのうちに私たちは自分という枠をこしらえて物事を見、窮屈な生き方をしています。見方を少し変えただけで緩やかな光景が広がります。そしていつも背後に光があり、先人の残した真実の道があることを知ります。人間道から仏道へ眼を転じたとき、私の中に新しいのちが芽吹きます。

【寺灯雑記】

○門信徒会役員会が開催

12/4

今年最後の門信徒会役員会が開かれ、今年一年の諸行事を振り返り総括するとともに、新年の行事予定や規約の改正（役員任期が二年から三年に変更）等について話し合われました。

また、今年度で役員任期が満了となりました。この二年間はコロナ禍で多くの仏事・行事が中止、縮小開催となるなかで、寺院活動についてご協力やご意見をいただいた役員の方々に心より感謝申し上げます。

新年度は新しい体制のもとで、門信徒役員会がスタートすることになります。

○新年を前に清掃奉仕

12/25

世間ではクリスマス一色に染まるなか、この日は午前十時より清掃奉仕があり、約二十名のかたがご参加くださいました。前夜から降っていた雨も上がり、石段や境内、本堂に聞法会館とそれぞれに持ち場と役割を分担し、隅々までテキパキとお掃除くださいました。

お陰様で一年間の汚れもすっかり落ちて、気分新たに新年をお迎えさせていただきます。

○法縁廟の申し込み受け付け始まる

十一月に完成した中原寺合同墓「法縁廟」の申し込み受け付けが始まりました。合葬の生前申し込みなどにも対応いたしておりますので、ご相談ください。

【折々のことば（お正月）】

新たな年を迎える節目にあたり、いま一度みずから見つめなおし、確かな足どりで人生を歩みたいものである。

蓮如上人は年の始めに、勸修寺村（かんじゅうじむら）の道德に次のように仰せになった。

道德はいくつになるぞ

道德念仏申さるべし

一つ年を重ねるにあたり、あらためて念仏を勧められたのである。

一年また一年と、年を重ねることは、決してあたり前のことではない。私自身にも、やがてこの世の縁の尽きる時が来る。阿彌陀如来は、はかなき私たちを哀れみ慈しんで念仏せよと、はたらきかけておられる。

いま私たちは、真実の教えに出あい、念仏申す身となって、大いなる安心のなかに人生を歩んでいる。

新たな年の始まりを、念仏とともに迎えることは、何よりも大きなよろこびである。

（拝読 浄土真宗のみ教え）より

【二〇二三年慶讃法要団参募集】

二〇二三年に西本願寺で勤まる「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」の千葉組団体参拝の概要が決まり、募集が始まりました。

この法要は、「親鸞聖人の説き示してくださいました浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はありません」という聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜

びを込めて、聖人のご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する「法要」です。来年五月の参拝となり予定の立ちにくいことではあります。が、ぜひ一緒に参拝いたしましょう。

参加ご希望のかたは中原寺までお申し込みください。また、詳しい行程などを知りたいかたは、お気軽にお問い合わせください。

日程…令和五年（二〇二三年）

五月八日（月）～十日（水）

代金…八万九千円

（四名様以上相部屋利用時・税込）

宿泊…一日目 雄琴温泉・緑水亭

二日目 有馬温泉・兵衛向陽閣

訪問先…西本願寺、青蓮院、日野誕生院、姫路城など

締切…令和四年二月二十日（日）



【二〇二二年（令和四年）年回表】

- *一周忌 2021年（令和3年）
- *三回忌 2020年（令和2年）
- *七回忌 2016年（平成28年）
- *十三回忌 2010年（平成22年）
- *十七回忌 2006年（平成18年）
- *二十三回忌 2000年（平成12年）
- *二十五回忌 1998年（平成10年）
- *二十七回忌 1996年（平成8年）
- *三十三回忌 1990年（平成2年）
- *五十回忌 1973年（昭和48年）

先にご往生された方を偲ぶとともに、尊い仏縁を結びましょう。

【一月の法座・行事の案内】

◎元旦修正会

*一月一日（祝） 朝八時

・おつとめ 正信念仏偈

・法話 「新年を迎えて」

住職・前任職

・ご流盃の儀

○婦人会総会・法座

*一月八日（土） 一時

御文章を味わう 前任職

○常例法座

*一月十六日（日） 一時

布教使 横内教順師（文京区称名寺）

○壮年会総会・法座

*一月二十三日（日） 二時半

阿弥陀経解説 住職

○いのちの居場所を考える会

*一月二十七日（木） 十時

○教行信証を学ぶ（証巻）

*一月二十九日（土） 二時 前任職

【今月の掲示板のことば】

一刻 一刻に
新たないのちを
いただく